

佐藤惣之助生誕130年記念展

夢よ、 氷の火ともなれ



「君は俗人であつて詩人であり、商人であつて浪漫家だ。」 萩原朔太郎

2020年8月1日[土]～9月27日[日]

開館時間：9時～17時（入館は30分前まで）

休館日：毎週水曜日

会場：2階展示室

観覧料：一般400円（高校生以下無料、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名無料）
・朔太郎展示室もご覧になれます。



佐藤惣之助記念・歌と詩のまち

前橋文学館

beyond
2020

泣くなよよし ねんねしな
 山の鴉が 啼いたとて
 泣いちゃいけない ねんねしな
 泣けば鴉が また騒ぐ

「赤城の子守唄」を作词した佐藤惣之助が、実は前橋に深く縁のある人だ
 とご存知でしょうか？

惣之助は、萩原朔太郎と同時代に活躍した詩人で、朔太郎とは友人であり、
 義弟でもありました。

1916(大正5)年に、第一詩集『正義の兜』を刊行すると、以後、次々と詩集
 を刊行し、句集や民謡研究、釣に関する著書まで、多くの作品を世に送り出し
 ました。

本展では佐藤惣之助の生誕130年を記念して、彼の詩人としての活動に
 焦点を当てつつ、俳句、戯曲、随筆、作詞と様々な角度から、惣之助の作品と
 多岐にわたる活動をご紹介します。

惣之助と妻・愛子、1935(昭和10)年頃

佐藤惣之助生誕130年記念展 夢よ、氷の火ともなれ

佐藤惣之助(さとう・そうのすけ)

1890(明治23)年12月3日—1942(昭和17)年5月15日
 神奈川県橘樹郡川崎町(現・神奈川県川崎市)生まれ。

俳句を佐藤紅緑に学ぶ。小山内薫らとの交流により、戯作をはじめ。その後、
 千家元麿らと雑誌「テラコッタ」を創刊。1916(大正5)年に第一詩集『正義の
 兜』を出版。詩話会会員となり、『日本詩集』の編集を萩原朔太郎と担当。自らの
 家を「詩の家」と称し、詩誌「詩の家」を主宰し、後進の育成に力を注ぐ。
 1933(昭和8)年に萩原朔太郎の末妹の愛子と再婚。晩年は、作詞家として
 「赤城の子守唄」や「湖畔の宿」、「六甲おろし」など数多くの歌謡曲を手がけ、
 コロムビアレコードの専属作詞家となる。義兄・朔太郎の葬儀の際は、葬儀
 委員長を務めるが、朔太郎が没した4日後に脳内出血にて逝去。



詩集「わたつみの歌」(1941年7月)
 朔太郎による装幀。



楽譜「赤城の子守唄」(1934年)
 竹岡信幸作曲。



詩集「風眼」
 (1923年7月)



随筆集「青神」
 (1930年11月)

リーディングシアター vol.12

佐藤惣之助脚本「田舎祭—草木と昆虫的方言をもつて組あはされし土俗悲喜劇—」

6月6日(土) / 14時開演(開場13時30分)

会場:3階ホール

定員:先着100人

◆詳しくは、文学館ホームページをご覧ください。

◆当日は、展示観覧券をご購入の上、会場にお越しください。

◆5月23日(土)午前9時より電話で受付(027-235-8011)

同時期開催

通り過ぎる電車のように—安藤紘平 私が出会った表現者たちⅢ

5月30日(土)~8月2日(日)

会場:3階オープンギャラリー

イベント情報

わたしたちはまだ林檎の中で眠ったことがない—第27回萩原朔太郎賞受賞者 和合亮一展
 記念イベント

茶の間の一億年と一秒の間で—和合ファミリーによる朗読会—

5月4日(月・祝)14時開演

◆詳しくは、文学館ホームページをご覧ください。

開催予定

萩原葉子生誕100年記念展(仮称)

8月1日(土)~10月11日(日)

会場:2階展示室

田村セツコ展—私が出会った表現者たちⅣ(仮称)

8月8日(土)~10月18日(日)

会場:3階オープンギャラリー

お知らせ

第48回朔太郎忌「『月に吠えらんねえ』in前橋 朔くん×朔太郎」

5月9日(土)14時開演 会場:前橋テルサホール

チケット:500円

◆ アーツ前橋展覧会情報
 廣瀬智央 地球はレモンのように青い
 4月10日(金)~6月14日(日)
 TEL 027-230-1144
 http://www.artmaebashi.jp/



◎アクセス

電車:JR前橋駅から徒歩20分/上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分

自動車:関越自動車道前橋ICから車で15分

※広瀬川サンワパーキング(市営パーク城東)のご利用に際しては、
 駐車券に割引処理をいたします。



萩原朔太郎記念 水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
 https://www.maebashibungakukan.jp

